



神奈川県立

高P連会報

事務局 横浜市神奈川区神之木台22番14号
 県青少年課神之木台分館内
 TEL 045-432-5889
 FAX 045-432-5891
 E-mail kana.koupren@kanagawa-koupren.org
 編集・発行 神奈川県立高等学校PTA連合会
 調査・広報委員会

第48回高P連県大会

2010.11.18
 パンフィコ横浜

「学び・行動するPTA」

今回の第48回大会は、11月18日に約一千名もの会員の参加によりパンフィコ横浜会議センターで開催されました。開会の言葉の後、主催者の原嶋繁会長のあいさつ、来賓として県教育委員会教育長・藤井良一様、校長会会長・鈴木彰様、及び安全振興会常務理事・團野勝美様から、それぞれあいさつをいただきました。

研究発表

川和高校
 「父親参加型PTA活動」では、お父様がとても楽しく参加されている様子が紹介されました。



磯子高校
 「二秒間のコミュニケーション」では、あいさつから始めるひとのつながりを重視した取り組みとその効果が報告されました。



茅ヶ崎高校
 「セルフ・イノベーション ナイトハイク」では、困難に打ち勝つ達成感を生徒に自ら体験してもらう活動が発表されました。



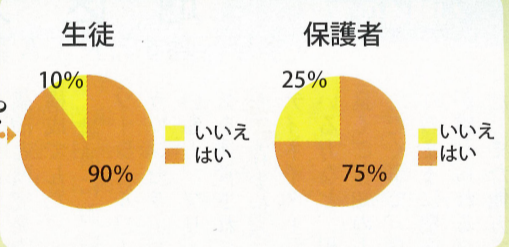
講演
「元気な、今日から」
 講演は、こころ元気研究所所長の鎌田敏さんから「こころ元気に、今日から（こころ）」と題してお話していただきました。



講師の独特な関西弁がみんなの気持ちを引きつける魅力があり、席を立ったり座ったり隣の人と自分の話をしたり、相手の話を聞いたりと、相手の話を聞いていたりといった参加型の講演で時間があっという間に過ぎてしまいました。また、初対面の人とはどことなくぎこちなさがあるものですが、それもすぐに吹き飛ばすコミュニケーションの取り方などがとても参考になり、参加されたPTAの方々も、楽しくて是非また聴きたい講演だったと好評でした。

第56回関東大会（神奈川大会）発表校

神奈川県立鶴見総合高等学校



「お手伝い」は真心のコミュニケーション

高校生は家でどんな「手伝い」をしているのか、保護者と生徒に向けて個別にアンケートを実施した結果、「お手伝いに関する親子の認識のズレ」を感じ、座談会で意見交換をしました。

手伝いの根幹を探りながら、親・子の本音を話し合い、初めはお互いに遠慮しながらの意見も、時間が経つうち本音かと思われる所も出始め、険悪ムード。さらに話が進むと、そこはやはり親子、お互いに素直に受け入れて感謝の気持ちや思いやりが必要になってきました。

「お手伝い」は家庭でも学校でも、いつでも使えるコミュニケーションです。

この発表を通して、私たちは「子育て」から自身の「個育ち」へと移行している事に改めて気づかされました。

これからも子どもを挟んで楽しいPTA活動を続けて参ります。ありがとうございました。

(鶴見総合高等学校PTA会長 安齋 精一)



会長のつぶかき

神奈川県立高P連 会長 原嶋 繁

最初に御礼を申し上げます。昨年7月に開催された『第56回関東地区高等学校PTA連合会大会 神奈川大会』も会員の皆さまのご理解とご協力のおかげで、盛大かつ無事に終える事ができました。本当にありがとうございました。心から感謝いたします。5000人を収容した国立大ホール。ステージ側から見ると、正に『圧巻』で緊張が快感に変わるのを体感しました。永遠に準備が続くと思っていた関東大会も、翌日の分科会が終了した時に「終わるんだ」と、嬉しいような寂しいような変な気持ちになった事、私的にも非常に貴重な体験をさせていただきました。22年度の高P連の活動もこの経験を活かし進化していきますので、今後もしっかりとお願いいたします。

気象台

友達の輪の大切さ

役員・委員決めを、思い返せば幼稚園時代から始まってきたような気がしますが、いつの日も、なり手のいない役員・委員探しには皆さんの苦勞も多々あると思います。

ある小学校・中学校では「一人一役」として決めている所もあるようです。新しい土地に引っ越して知り合いがない方などには学校の役員・委員に参加してみるのが自然に友達の輪が広がります。毎日の生活が楽しいものにきつとになると思いますが、それに、決して一人では無いと言う事。一人では、限界がありますが各々の得意分野を生かすことによって大きな取り組みが出来るのそばしば見かけます。また、どんな時にも感謝の気持ちを忘れてはいけません。コミュニケーションを取るのとはとても難しいと考える人も多いと思います。が、さり気ないあいさつを何回も交わすことにより自然とコミュニケーションが取れてくるので続けて欲しいと思います。

相手からのあいさつを待つだけでは無く、自分から勇気を持つて声をかけてみるのも一つの手だと思えます。皆さん!! チャレンジしてみましょよ!!

平成23年1月24日午後2時より、神奈川県民センター2階ホールにて
平成22年度 第34回 広報紙コンクール表彰式・講演会が開催されました。

1月13日に神奈川新聞社の出沼様を審査委員長にお迎えし、県教委、校長会、安全振興会、高P連役員で構成される審査委員会により厳正な審査が行われ、応募総数91校の中から金賞4校、銀賞4校、銅賞7校、特別賞(安全振興会賞)1校の16校が選出され、金賞4校中多摩高校PTAが最優秀賞の栄光を手にしました。

表彰式では、今年も各受賞校には受賞の連絡のみを行い、どの賞を受賞したかは事前にお知らせしていなかったことから、各校とも期待と不安で、緊張した様子でしたが、その分、各賞の発表後は皆さん大きな感動に笑顔があふれていました。

来年度も、多数のご応募をお待ちしております。

表彰式後、(社)共同通信社ビジュアル報道センター写真部次長の富田晴海氏を講師としてお迎えし、『報道写真と広報紙 写真の楽しみ方』と題した講演が行われました。報道カメラマンならではの臨場感あふれる写真により、昨年1年間の出来事を振り返ることから始まり、携帯電話を利用した報道写真の転送テストや写真の加工方法、写真撮影のコツなどを参加者を交えた実演により楽しみながら受講することができました。

最後に、(財)神奈川県立高等学校安全振興会作文コンクール特選作品の中央農業高校、菅井昭雄さんの『心の健康 ～僕が目指す療法士～』・同校、八木由紀さんの『変わること ～心と食について～』の2作品を本人の朗読で紹介していただきました。高校生の素晴らしい作品に盛大な拍手の後、閉会となりました。



講師 富田晴海氏

今回、応募各校の広報紙を拝見し、そのどれからも多くの学校関係者のみなさんに読んでもらいたいという気持ちが伝わってくるのと同時に、審査のポイントである「PTA活動の主体性とその表現」「企画性・アイデア」「編集・レイアウト」といった点にも工夫が凝らされていることが分かり、作り手のみなさんの熱意や努力を感じました。

さらに、学校の特色を見事に反映させ、PTA関係者とは違う視点でも興味深く読

める紙面をつくりあげているケースが数多くあり、正直、点数をつけていく作業には頭を悩ませました。

金賞4校はそれぞれ、素晴らしい「特集」企画を組んでいて、読み応えがありました。学校行事などを紹介することに加え、紙面の内容を一層充実させる“プラスアルファ”として、作り手側が個性を発揮できる「特集」に挑戦してみてください。みなさんの今後の活動のご参考にしていただければと思います。

講評
神奈川新聞社
出沼 康男

地区大会

「学び行動するPTA活動を目指して」

今年度の地区大会は、9月25日の横浜地区大会から、11月20日の専門教育部会まで、およそ2ヶ月にわたり、県下10地区にて開催されました。参加者総数は二千九百余名におよび、各地区大会ともに盛会にて終了することができました。各々の地区の理事校、発表校、及び関係者の方々の多大なご協力があったからこそ、その事と感謝申し上げます。各地区とも概ね講演と研究発表の二部構成でした。

講演においては、ソーシャルワーカーやカウンセラーをされている方、フリースペー

スを運営されてきた方や、青少年育成コーディネーターをされている方など、現場を体験されて、良くご存知の方々にお話をさせていただく事で、高校生の現状を、ありのままに把握しようという熱意が感じられる試みが多数ありました。また他方では食育にかかわる



各地区各々に、活発な活動と交流が行われた様子に、これからの単位PTA、地区協議会、高P連の活動に資して行かれる事と、期待したいと思われました。

研究発表については、各学校をそれぞれの事情や、特色を生かしたついでに、現存する課題に正面から取り組み、地域や父親の参加などもおりこみながら、生徒たちのために何ができるのかを、真剣に検討し、行動を試み、結果を検証してゆくという、まさに「学び、行動するPTA活動」の姿を、それぞれの学校なりの工夫をこらして、見せていただく事ができたと思います。

講演が、3つの地区にて行われており、現状をふまえて具体的に、どうして行けばいいののかという事を、生きる事の基本にまで立ち返って、確かめていこうとする意識の高さを感じさせられました。

研究発表については、各学校をそれぞれの事情や、特色を生かしたついでに、現存する課題に正面から取り組み、地域や父親の参加などもおりこみながら、生徒たちのために何ができるのかを、真剣に検討し、行動を試み、結果を検証してゆくという、まさに「学び、行動するPTA活動」の姿を、それぞれの学校なりの工夫をこらして、見せていただく事ができたと思います。

●多くの子ども達や委員の皆さんの思いにふれる事ができ、活動・運営に関わってあげたいと思います。(H・A)

●チームワークの大切さを実感できた会報発行でした。広報委員会の皆さん「ありがとう」。(K・K)

●広報委員会の仕事をするのは初めてで、何をどうしたらいいのかも分からない私でしたが、みんなの協力のもと楽しい委員会活動ができました。

●本当にありがとうございました。(M・Y)

●高P連会員の皆さん、役員の方々に、そして広報委員会の皆さんに感謝の気持ちを込めて「ありがとう」。(S・A)

●子どもたちとかわるこのこと、この素晴らしい活動に参加させていただき、本当に感謝しています。(Y・S)

編集後記

金賞



(左より)
県教育委員会教育長賞
多摩高等学校PTA
神奈川新聞社賞
大船高等学校PTA
県立高等学校長会賞
横須賀高等学校PTA
県立高等学校PTA連合会賞
平塚商業高等学校定時制PTA

銀賞



(左より)
神奈川新聞社賞
希望ヶ丘高等学校PTA
県立高等学校長会賞
横浜国際高等学校PTA
(財)県立高等学校安全振興会賞
金沢総合高等学校PTA
県立高等学校PTA連合会賞
神奈川総合高等学校PTA

銅賞・特別賞



(上段左より)
《特別賞(表紙)》
横須賀高等学校PTA
《銅賞》
県立高等学校PTA連合会賞
七里ガ浜高等学校PTA
鎌倉高等学校PTA
向の岡工業高等学校PTA
(下段左より)
県立高等学校PTA連合会賞
百合丘高等学校PTA
上矢部高等学校PTA
鶴見高等学校PTA
平塚江南高等学校PTA

交通安全大会

「子どもたちの安全を守るために」

今年度も、10地区で「交通安全大会」が開催されました。各地区の交通安全担当校、発表校、及び会員の皆様のご協力を心より感謝申し上げます。

高校生との合同開催が始まって3年目、9地区で高校生大会とPTA大会の合同開催となりました。代表生徒が、熱心に調べた交通ルール、マナーのクイズでは、間違っ



ずでは、間違っ

ていたルールをたくさん発見。とても勉強になりました。寸劇や、研究発表では、交通安全に対する日頃の思いが伝わってきました。保護者も各校や各地区での交通安全の取り組みを発表し

あつて交通事故ゼロをめざしていただけたらと思います。(健全育成委員会)

この大会が、生徒、保護者のお互いの目線で交通安全を考える良き機会となりました。ある地区の講演で、「生活習慣の向上が、交通安全につながる」と聞きました。時間にゆとりを持つた行動、他人を思う心のゆとり。日頃のちょっとした心がけで、事故は未然に防げます。どうぞ、この機会に家庭でも、話し

あっ発見! 高P連ホームページ

みつけただけでなく、どうぞ、覗いてみてください!
各地区の情報。高P連の各会議の報告。質問コーナー。等々ホームページの存在を知っている会員は、最近増加してきました。が、全体の50%程度です。その中で、ログインされた会員は、悲しいことにごく僅かです。もっと、たくさんの会員の方のログイン、お待ちしております。

<http://www.kanagawa-koupren.org>

THANK YOU!

～関東神奈川大会 ありがとう～

2010年7月8・9日
パシフィコ横浜国立大ホール他

感謝の気持ちを「ありがとう」で伝えたい

7年に1度の輪番になっている関東大会。今年の神奈川大会は、5000名を超す参加がありました。岸大会実行委員長をはじめ役員の方々・諸先生方・今年度の理事の方々・横浜北・横浜中・横浜南地区の協力員の方々の多数のご協力・形には見えない方々のご協力のもと、大成功に終了できたのだと思います。

なかなか表現しにくい感謝の気持ちを「ありがとう」の言葉に変えて伝えたいと思います。



キレイなダンスをありがとう



こころに残る講演 ありがとう!



参加していただいたみなさん



ステキな演奏を ありがとう!



事前準備と 裏方のみなさん ありがとう!



これを読んでくれているあなたに、ありがとう

決して一人では成功できなかった大会だと思います。皆様のご協力・ご参加頂いた皆さん「本当にありがとうございます」ございました。

子どもたちに、ありがとう

●● かながわ教育ビジョンの推進 ●● ～心ふれあう しなやかな 人づくり～

県教育委員会では、明日のかながわを担う人づくりを進めるため、様々な取組みを行っています。

高校生ボランティアセンター 新規スタッフ募集

県教育委員会では、平成18年度より生涯学習情報センターの一部に高校生ボランティアセンターを設置し、高校生のボランティア活動の支援を進めています。

平成22年度は、公募により集まった57名のスタッフが、環境・国際・青少年・福祉の4分野のグループに分かれ、高校生が参加するボランティア企画をそれぞれ計画・実施することにより、多くの高校生が参加しました。

高校生ボランティアセンターでは
■平成22年度 高校生ボランティアセンター活動発表会のご案内
 (日時：3/13(日)13:30～16:00
 会場：かながわ県民センター5階 入場自由)

■平成23年度 新規スタッフ募集
 (募集人数：40名程度を予定
 応募締切：4/27(水))を行います。詳しくはホームページをご覧ください。各学校へ送付する募集案内(3月送付予定)をご覧ください。

高校生ボランティアセンターホームページ http://www.planet.pref.kanagawa.jp/k_vol/k_vol_top.htm

●問い合わせ/県生涯学習情報センター
 住所 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
 かながわ県民センター5階
 電話045(312)1121 内線2506

サンマルサンサン 3033運動

「3033運動」をご存知ですか？神奈川県では、県民の皆さんが一人でも多く、健康で明るく豊かな生活を営んでいただくために、1日30分、週3回、3ヶ月間、継続して運動やスポーツを行い、くらしの一部として習慣化する「3033運動」を推進しています。

とは言え「なかなか始めるきっかけが…」という方も多いと思います。「〇〇をはじめるぞ」と構えたりせず、まずは気軽に取り組んでみましょう。

例えば、通勤・通学時に歩く時間を増やしたり、最寄の階へは階段で、から始めてみませんか？

「その少しの時間が…」という方は、ちょっと大股で歩くなど日常生活の動きを運動として意識しても効果が期待できます。

3033運動で、あなたのからだがか
 ヨミガエル・ミチガエル・ワカガエル!

まずは、ホームページにアクセス!

役立つ情報が満載!



「Let's! Enjoy! 健康☆体力づくり」

平成21年度、全国体力テスト(全国体力・運動能力、運動習慣等調査)等の結果から毎日朝食を食べている子どもは体力合計点が高いなど、体力や運動能力と生活習慣に関係があることが分かり、本県では、生活習慣の見直しに重点をおいて体力向上を図ることとしました。

生活習慣の見直しには、東海大学小澤教授が提唱する、これまでのライフスタイルの中で、どこか一つを変えることで全体をよいサイクルに変える「風車理論」*を活用していきます。

そこで、「Let's! Enjoy! 健康☆体力づくり」を合い言葉に「しっかり朝食、たのしく運動、テレビはひかえて、ゆっくり睡眠」をキャッチフレーズとして小・中学生及び高校生の生活習慣改善に向けて、学校・家庭・地域が連携し、それぞれの立場で支援する取組みを推進します。

さあ、皆さんも子どもの運動習慣や生活習慣の改善に向けて、できるところから取り組んでみましょう。

*風車理論：「朝食を食べれば排便があり、体温が上昇して体調も良好となり、学校でも集中して、授業や部活動において力を出し切れるから、心地よい疲れ、おいしく夕食、入浴して夜は熟睡することで朝の目覚めがすっきり」とライフサイクルは風車のように回っている。風車はひとつに風を当てると全体が回るといふ考え方。

商工高校改編に係る「新校設置基本計画案」への意見募集について

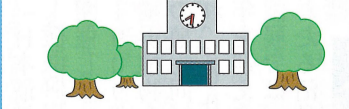
平成22年8月に県教育委員会では、商工高校を単独で改編し、総合ビジネス科及び総合技術科併置校として平成25年4月に開校することといたしました。

その後学校長等教職員と教育局職員による新校準備委員会で検討を進め、このたび新校の設置の目的や設置形態、教育課程編成の考え方など、基本的な枠組みを示す「新校設置基本計画案」を平成22年12月に公表し、意見募集を行っております。

新校は併置した二つの学科相互の融和を図りながら、専門的な商業教育・工業教育を総合的に展開し、次代の神奈川の地域産業を担う人材を育成してまいります。

今後、より魅力的な新校となるよう検討を進めていくために、幅広い立場の皆さまから御意見をお寄せくださいますよう、お願いいたします。

掲載HP
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/40/4025/kaikaku/iken.html>



●問い合わせ
 県高校教育企画課
 高校教育事業グループ
 電話045(210)8254直通

「フィルタリング」設定のお願い

近年、子どもたちが携帯電話から出会い系サイトなどの有害サイトにアクセスして、犯罪に遭う被害が急増しています。また、プロフ、ブログ、掲示板等に個人情報や誹謗中傷を書き込むなど、子ども同士のトラブルも多発しています。

こうした問題を防ぐために、有害サイトの閲覧防止に有効なフィルタリング(有害サイトアクセス制限)を設定してください。

なお、平成21年4月からは法により、保護者の申出があった場合を除き、フィルタリング設定は原則義務化されています。

県教育委員会では、携帯電話の安全利用のための携帯電話サイト「かながわモード」を開設していますので、是非ご利用ください。

「かながわモード」のアドレスと2次元コード
<http://www.pref.kanagawa.jp/i/40/4027/02/index.html>



ファミリー・コミュニケーション運動

「もっと、話そうよ。大切な家族だから。」というキャッチフレーズのもと、相手を思いやり大切にできる子どもを育てるため、家族のコミュニケーションを深める環境づくりを推進しています。

詳しくは県ホームページをご覧ください。

ファミリー・コミュニケーション運動! もっと、話そうよ。大切な家族だから。～
 いじめ等の未然防止を目的として、家庭でのコミュニケーションを大切に、子どもたちが自分の気持ちを素直に表現する力や相手を思いやる気持ちを育てる「ファミリー・コミュニケーション運動」を推進しています。
 神奈川県教育委員会 いじめ・暴力行為等防止運動推進会議
 ファミリー・コミュニケーション運動

交通安全運動 各地区の取組

学校・家庭・地域の連携

神奈川の交通安全教育

本年度より「かながわ新運動」から学校と家庭、地域とが連携した「スタートかながわ」が始まりました。この主旨については、近年の高校生事故件数は減少しているものの自転車や歩行中の事故が増えていること、高校生だけの運動でなく幼児から児童、生徒、学生、地域などの皆で取り組む運動にすること、また、高校生が中心となつて校種を越えた地域との連携で行う運動に発展することを願って行われるもので、「生命尊重」「思いやり」「遵法精神」の柱は変わりません。(図1参照)

交通安全デーを地区で設定し、中学・高校・大学、そして各警察署や交通安全協会、PTA、地域が連携するなどの大規模な活動が報告されています。また、高校生とPTA、警察とが連携して地域の福祉施設を訪問し、高齢者に多い事故防止を演技を交えて楽しく語りかけるなどの報告もありました。

一、主な活動紹介

① **相模原地区**
県立高校地区校長会とPTAが核となつて近隣の中学校や高校、大学に呼びかけ、十月十三日を交通安全デーに設定、各地の警察や相模原市の交通安全協会等の協力で啓発パンフの作成と配布、地域の催し物を活用した啓発活動を展開させました。(図2参照)

② **横浜北地区**
「スタートかながわ」

みんなの交通安全教育推進運動
スタートかながわ
平成22年度より、小・中・高各段階での系統的な交通安全教育を推進します。
「スタートかながわ」は・・・
●児童生徒が主体です。
●学校と家庭が連携し、それぞれの役割を果たします。
●小・中・高の系統内の教育だけでなく、社会と連携して交通安全教育を行います。

＜理念＞
生命尊重
いのちを大切にしよう
遵法精神
ルールをまもろう
思いやり
思いやる心を育てよう

さあ、みんなで、「スタートかながわ」!

(図1 ポスター) 保健体育課より

推進モデル校に指定された学校で、ユニークな活動(ジャグリング部とボランティア委員会)の生徒さんとPTA交通安全委員、警察とで高齢者施設を訪問しました。ジャグリング部の妙技を見てもらいながら「よく見るよ」と、ボランティア委員会で作成した模造紙大のパンフレット(二種類)を示しながら「目立つ服装や行動をすること」を訴えました。最後に生徒やPTAから「皆

地域の安全 地域で守る!

相模原地区 交通安全デー
～安全・安心な地域を目指して～

相模原市内中学・高校・PTA・大学・警察・相模原市役所・地域の方々等が協力して、地域の安全を守る「相模原地区交通安全デー」の取組を行います。特に自転車利用者に対する交通ルールの遵守とマナーアップを呼びかけます。

平成22年10月13日(水)



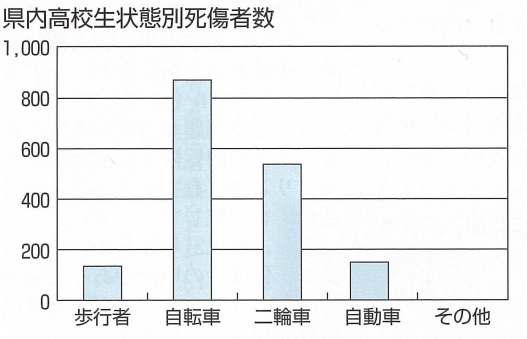
(図2 連携模式図) と呼びかけのためのパンフレット (抜粋・右下)

さんはかけがえのない人です。事故にあわないようにして元気で長生きしてください」と(模造紙大のパンフ)語りかけました。

最近の交通事故
高校生の事故状況は死者や事故件数も例年に比べて減っていますが、自転車による事故が多いことがわかります。(図3)

学年別交通事故発生件数

学年	発生件数(件)	前年比	死亡者(人)	前年比
1年	610	33.8%	4	4
2年	644	35.7%	1	0
3年	552	30.6%	1	1
計	1,806	-70	6	5



(図3 高校生の事故件数 H22, 1月～11月) 保健体育課より

自転車はとても危険!

高校生1万人あたりの交通事故件数の推移

自転車事故で高額賠償も!

自転車で下校途中の高校生が、不注意で主婦に衝突し、相手を転倒させるという事故がありました。その後、相手の方は残念ながら亡くなられたため5,000万円以上の高額賠償金を請求されることになりました。その高校生は、自転車保険に入っていなかったそうです。

「お達者七訓」 ポイント 高齢者の歩行者事故 増加しています!! 高齢者の自転車事故

「お達者七訓」
1. 歩行者は歩道を歩きましょう。
2. 歩行者は歩道のない場合は、歩道に近づくように歩きましょう。
3. 歩行者は歩道の端を歩きましょう。
4. 歩行者は歩道の幅が狭い場合は、歩道の中央を歩きましょう。
5. 歩行者は歩道の幅が広い場合は、歩道の端を歩きましょう。
6. 歩行者は歩道の幅が狭い場合は、歩道の中央を歩きましょう。
7. 歩行者は歩道の幅が広い場合は、歩道の端を歩きましょう。

高齢者の歩行者事故
高齢者の歩行者事故は、歩道の端を歩かないことや、歩道の幅が狭い場合は歩道の中央を歩かないことなどが原因です。

増加しています!!
高齢者の自転車事故
高齢者の自転車事故は、歩道の端を歩かないことや、歩道の幅が狭い場合は歩道の中央を歩かないことなどが原因です。

この秋は「お達者七訓」を守って安全な秋を過ごしましょう。

(財)神奈川交通安全協会 地区交通安全協会・神奈川県警察

歴史博物館

2月19日(土)～4月10日(日)まで、コレクション展「江戸時代の貨幣」を開催します。

本展示は、個人や東京銀行(現三菱東京UFJ銀行)から寄贈された貨幣コレクションの中から江戸時代の貨幣を展示するものです。この時代、銅貨、銀貨、金貨など様々な貨幣が使用されました。本展示ではこれら近世貨幣の多様性と機能的な美しさなど見どころをご紹介します。

お楽しみ企画
天保通宝

天保通宝

生命の星・地球博物館

2月27日(日)まで企画展「日本最初の植物同好会―横浜植物会の100年―」を開催しています。

1909年に設立された横浜植物会は、日本最初の植物同好会として知られ、2009年、創立100周年を迎えました。この企画展では、同会の100年にわたる活動の歴史を植物標本や写真、書簡などを通して振り返ります。

休館日等については、各館のHPをご確認ください。記載の電話番号までお問い合わせください。

生命の星・地球博物館
2月27日(日)まで企画展「日本最初の植物同好会―横浜植物会の100年―」を開催しています。

1909年に設立された横浜植物会は、日本最初の植物同好会として知られ、2009年、創立100周年を迎えました。この企画展では、同会の100年にわたる活動の歴史を植物標本や写真、書簡などを通して振り返ります。

金沢文庫

3月6日(日)まで「運慶―中世密教と鎌倉幕府―」を開催しています。

「運慶」は、日本で最もよく知られる仏師ですが、その真作は数えるほどしか残っていません。数少ない運慶の仏像を一堂に集め、密教と鎌倉幕府との関係から、運慶作品の秘密に迫って行きます。

本展では、運慶の初期の作、奈良県・円成寺所蔵の国宝・大日如来坐像をお迎えし、最晩年作の称名寺光明院所蔵の大威徳明王像(金沢文庫保管)と並ぶ展示が実現します。また、運慶作である円成寺像と、運慶作と推定されている大日如来坐像(光得寺所蔵・真如苑所蔵)の三体が揃ってお出ましになります。

見逃しな
貴重な機会です。
☎(045)701-9069

近代美術館

葉山館では、3月27日(日)まで「彫刻家エル・アナツイのアフリカ」展を開催しています。

ガーナ出身であり、現在ナイジェリアで制作する彫刻家エル・アナツイ(1944-)は、ワインやアルコール飲料の瓶のキャップやシールの廃材を利用し、巨大な織物状のインスタレーションを展開して、高い評価を得ています。

旧作の木彫から新作のメタリック・タペストリーと資料、あわせて約70点を展示しています。
☎(046)875-2800

《壁(グリ)》(部分)

県立の博物館・美術館からのお知らせ